英語圏文学講読（古典）　高橋 百合子

授業概要

この授業では、劇作家ウィリアム・シェイクスピア(1564-1616)の主要作品のいくつかを、主に翻訳をもちいて読んでいく。イントロダクションとして、シェイクスピアが活躍した１６世紀末から１７世紀初頭のイングランドの劇場の特徴をはじめ、当時の上演状況なども紹介してく。演劇を文学作品として読むということの基本を学びながら、「ことば」の持つ可能性に注目し、かつ想像力を最大限に生かして、文学作品の豊かな世界を楽しむことができるよう、授業を進めていきたい。シェイクスピアの時代はまさに、パンデミックとの戦いの時代でもあった。作品やその上演をめぐる様々の状況と今日の状況を比較し、考えるきっかけとなることを期待している。

秋期の英語圏文学特論（古典）につながる科目である。

授業計画

第 １ 回	イントロダクション：シェイクスピアの人物像と作品、時代背景について
第 ２ 回	シェイクスピアの時代の劇場とその環境について
第 ３ 回	シェイクスピアの歴史劇（１）
第 ４ 回	シェイクスピアの歴史劇（２）
第 ５ 回	シェイクスピアの悲劇（１）
第 ６ 回	シェイクスピアの喜劇（１）
第 ７ 回	シェイクスピアの悲劇（２）
第 ８ 回	シェイクスピアの喜劇（２）
第 ９ 回	シェイクスピアの悲劇（３）
第 10 回	シェイクスピアのロマンス劇（１）
第 11 回	シェイクスピアの悲劇（４）
第 12 回	シェイクスピア作品の上演のさまざまな可能性：映画
第 13 回	シェイクスピア作品の上演のさまざまな可能性：ミュージカルなどの音楽劇、バレエ
第 14 回	シェイクスピア作品の上演のさまざまな可能性：歌舞伎・狂言など日本の伝統芸能と関連
第 15 回	これまでのまとめとフィードバック
第 16 回	レポート提出

到達目標

文学作品の持つポテンシャルを最大限引き出すために必要なことを、授業の中で実践していく。歴史的背景や文化的背景を知ること、「ことば」をコンテクストに即して読むことの重要性を学んでいく。さらに、さまざまなことを幅広く学びながら、文学作品のより深い理解に欠かせない知識も蓄積していく。

履修上の注意

講義科目ではあるが、文学作品の読み方を身につけ、自分で読むという意味では、実習科目でもある。授業で使用するテキストは、できれば翻訳を購入するか、図書館で貸出し、じっくり読んでほしい。また、授業中の携帯電話、スマートフォンなどの使用は厳禁とする。

予習・復習

プリントで配布したテキストの抜粋などに関しては、自分で読み、授業で学んだことを活かして再読すること。またセリフは音読してみるとよい。テキスト以外に授業で取り上げた内容について、自ら調べ、理解を深めるよう復習してほしい。

評価方法

予習復習の程度、授業への参加度、リアクション・ペーパー、確認テストなどを点数化し、学期末に課すレポートと合わせて、総合的に評価する。学期末レポート５０%、各種課題２５%、授業態度２５%。

テキスト

主要作品の抜粋などは、プリントなどを用いるが、購入してもらうテキストについては、授業中に、随時指示する。